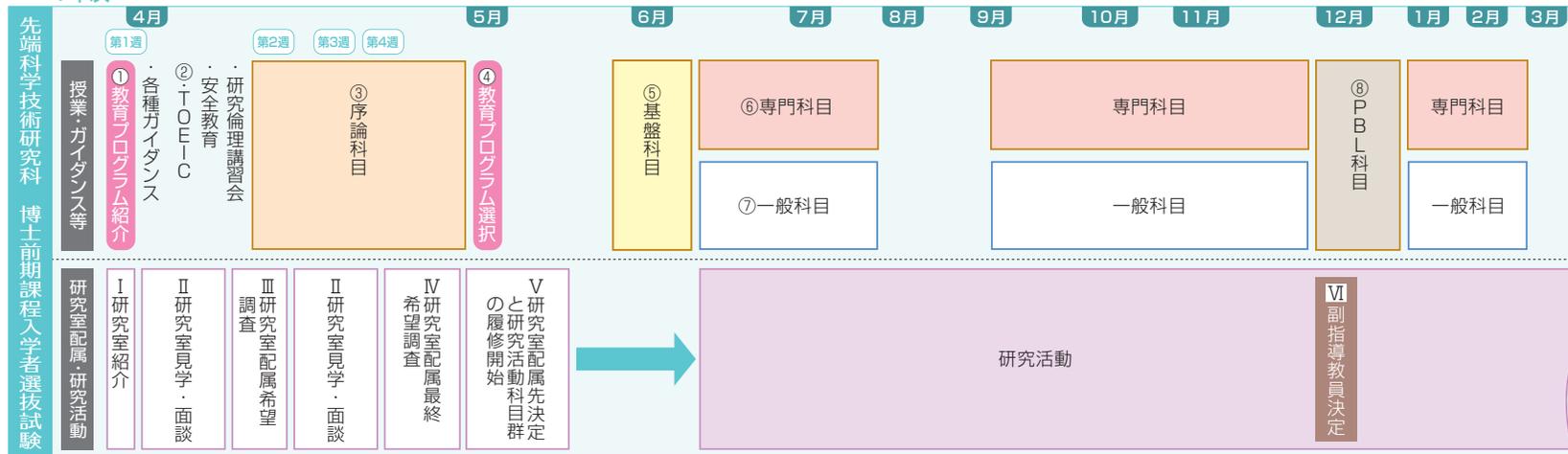


奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科

(博士前期課程)

NAISTライフマップ 2019【4月入学の場合】

1年次



*標準的なスケジュールのため、若干前後する場合があります。

2年次



入学者選抜試験	
博士前期課程入学者選抜試験	情報科学区分・バイオサイエンス区分・物質創成科学区分のいずれかの試験区分を受験します。
授業・ガイダンス等	
①教育プログラム紹介	・7つの教育プログラムについての説明が行われます。
②TOEIC	・TOEICを受験することで、入学時の英語能力を把握し、修了時の英語能力の向上に目標を持って取り組みます。スコアは、英語授業のクラス編成にも利用されます。
③序論科目	・先端科学技術の世界的な潮流と方向性を広く理解したうえで教育プログラムを選択するために7科目の「序論科目」が開講されます。(各1単位×7科目)。 序論科目は、3単位修得していることが修了要件の一つとなります。
④教育プログラム選択	・主指導教員と相談して教育プログラムを決めていきます。
⑤基盤科目	・大学で学んだ専門分野だけに偏らず異なる分野や融合分野に挑戦できる各教育プログラムの履修に必要な基盤知識を修得するために「基盤科目」を受講します。 ・基盤科目と専門科目には、教育プログラム毎に、その特徴的な専門知識を学ぶのに必要となるコア科目が設定されています。 ・基盤科目と専門科目とあわせて12単位修得していることが修了要件の一つとなります。
⑥専門科目	・各教育プログラムの人材育成目標に沿った高度な専門知識を学ぶために「専門科目」を受講します。 ・各教育プログラムの中核となる講義で、各学生が履修する「PBL科目」の課題と問題解決につなげる知識を修得することができます。 ・基盤科目と専門科目には、教育プログラム毎に、その特徴的な専門知識を学ぶのに必要となるコア科目が設定されています。 ・基盤科目と専門科目とあわせて12単位修得していることが修了要件の一つとなります。
⑦一般科目	・次世代の先端科学技術を担うために欠かすことのできない幅広い素養と社会性、国際性を育むために「一般科目」を受講します。 ・一般科目は4単位修得していることが修了要件の一つとなります。
⑧PBL科目	・学生自身の専門分野の裾野を広げるのみならず、融合分野を開拓する際に必要となる異分野間コミュニケーション能力や挑戦性・総合性を育成する科目です。 ・7つの教育プログラム毎に開講します。 ・PBL科目は2単位修得していることが修了要件の一つとなります。

研究室配属・研究活動	
I. 研究室紹介	・興味のある研究室が取り組んでいる内容などの説明を聞き、配属を希望する研究室を検討します。
II. 研究室見学・面談	・研究室紹介で興味を持った研究室を直接訪ねて、研究室の更に詳しい内容や自身の研究目標など教授等の研究室責任者と直接話をする機会です。また、研究室の先輩方と情報交換できる機会でもあります。
III. 研究室配属希望調査	・研究室紹介・見学・面談を踏まえて、この時点で配属を希望する研究室を記入します。
IV. 研究室配属最終希望調査	・研究室訪問や領域移動可否審査の結果を踏まえて、配属を希望する研究室を記入して提出します。 ・希望調査の配属希望に沿って研究室が決まり、主指導教員が決定されます。
V. 研究室配属先決定と研究活動科目群の履修開始	・主指導教員による履修指導と研究指導が開始されます。 ・主指導教員による履修指導にもとづいて、随時、履修していきます。9単位修得していることが、修了要件の一つとなります。
VI. 副指導教員決定	・副指導教員が決定されます。副指導教員は主指導教員とともに研究指導を行います。
VII. 修士中間報告	・指導教員(主・副)が出席して実施されます。 ・修士論文作成に必要な指導が行われます。
学位の審査	
VIII. 学位論文審査願の提出	・修士論文の審査手続きを行います。 ・学位の名称(理学、工学、バイオサイエンス)は、学位論文の内容と履修した教育プログラムに基づき申請します。
IX. 修士論文審査	・論文審査と試験が審査委員会により実施されます。 ・学位審査は学位論文審査基準に沿って行われます。

教育プログラムと授与される学位
 情報理工学プログラム：修士(工学/理学)、情報生命科学プログラム：修士(工学/理学/バイオサイエンス)、バイオサイエンスプログラム：修士(バイオサイエンス)、バイオナノ理工学プログラム：修士(工学/理学/バイオサイエンス)
 物質理工学プログラム：修士(工学/理学)、知能社会創成科学プログラム：修士(工学/理学)、データサイエンスプログラム：修士(工学/理学/バイオサイエンス)
 ※履修できる教育プログラムは研究室ごとに異なりますので、希望配属研究室を検討される際には、ご留意願います。(研究室と教育プログラムの関係：http://www.naist.jp/facilities/labo.html)